

## Pickup NEWS

ワイヤレスとモバイルの総合展示会&amp;カンファレンス

## WIRELESS JAPAN 2005「新技術、新製品、新事業が一堂に」

7月13日から15日の3日間、東京ビッグサイトで「WIRELESS JAPAN 2005」が開催された。同時に、次世代ワイヤレス技術展( Ubit )、ITS EXPO東京会場、ネットワークロボット展が開催されたこともあり、会場は多くの参加者でにぎわった。

## 基調講演

「ワイヤレス市場構造の変革とワイヤレス・ブロードバンドサービス提供におけるソフトバンクの戦略」

常務取締役 宮川潤一氏

同社が次に目指すのは「モバイル」。固定通信と無線LAN、携帯電話を融合したプラットフォームを提供していきたいとして、すでにWi-Fiと3G携帯電話のハンドオーバー実験中であることを明らかにし

た。

話題を集めている1.7GHz携帯電話のビジネス展開については、「もし参入できるとしたら」と前置きして、「来年の終わりがろまでには実験的なデータ通信サービスから始めたい」と語った。

音声サービスについては、すべて自前で構築するには最低2年はかかるというので、「昨日ボーダフォンがMVNOをやると発表したようなので、ローミングを利用することができれば、サービスの開始を早めることができるかもしれない」と期待を示した(写真2)。

## 「ウィルコムを目指すモバイル通信」

代表取締役社長 八剣洋一郎氏

まず、最近の加入者数について言及

し、2004年3月以降、15か月連続して純増していると語った。

PHSの長所については、携帯電話が採用しているマクロセルネットワークの場合は、約2km間隔で基地局を敷設し1つの基地局に多数のユーザーが集中するので1ユーザーあたりの速度が低下する傾向にあるが、PHSが採用しているマイクロセルネットワークの場合は多数の基地局にユーザーを分散することで1ユーザーあたりの速度を最大化でき、また周波数の利用効率を高めることができると説明。定額制が実現できたのは、こうした背景があると語った。

## 展示会

おさいふケイタイ「Ez FeliCa」



写真1: 基調講演のほかに、アジア・ワイヤレス・サミット、4G+IEEE802ワイヤレスフォーラムなど多くのセッションが開催された。



写真2: ソフトバンク 宮川潤一氏の基調講演。固定ブロードバンドプラットフォームの次に、新たなステージに挑戦すると語った。



写真3: KDDIのおサイフケイタイ「Ez FeliCa」のデモ。JR東日本と提携した「モバイルSuica」は来年1月サービスを開始する予定。



写真4: イー・モバイルのオールインワンモデル。利用シーンに応じて、縦型・横型で使える可動型両面ディスプレイを装備する。



写真5: ウィルコムのジャケットフォン「WILL-COM SIM STYLE」。トップの部分が開けるようになっていて「W-SIM」を挿抜できる。



写真6: 「EasyST」は、円筒の部分にWiMAX(802.16-2004規格)の送受信アンテナ、円盤の部分にゲートウェイ用ボードが入っている。

KDDIは7月11日に発表した「Ez Feli-Ca」をデモ(写真3)。また新しい技術として燃料電池、アクティブ型およびパッシブ型のRFIDなどを紹介していた。

### イー・モバイルの携帯電話コンセプトモデル

1.7GHz帯で携帯電話事業に参入を計画しているイー・アクセスの子会社イー・モバイルは、新しい携帯電話の使い方を提案する数多くのコンセプトモデルを展示し、来場者にアンケートを実施していた(写真4)。

### ジャケットフォン「WILLCOM SIM STYLE」

ウィルコムは7月7日に発表したPHS無線通信モジュール「W-SIM(ウィルコムシム)」を搭載したジャケットフォン「WILLCOM SIM STYLE」試作品を展示していた(写真5)。

### WiMAX 卓上型送受信機「EasyST」

今年12月にWiMAXの商用サービス開始を予定しているYOZANのブースに

は、WiMAX卓上型送受信機「EasyST」(写真6)、WiMAX/Wi-Fi変換コンバータ「ProST」が展示されていた。

### ブロードバンドの新規格に積極的に取り組むインテル

インテルは、新ワイヤレスブロードバンド規格「WiMAX」(802.16-2004)に準拠した「インテルPRO/Wireless 5116システムオンチップ」を搭載したボード2基で実験を披露(写真7)。また本年5月に完成したワイヤレスUSBバージョン1.0仕様に基づく「ワイヤレスUSBのプロトタイプ」もデモしていた(写真8)。

### 超小型マルチプラットフォーム・モバイル・ルータ

アライドテレシスは、「超小型マルチプラットフォーム・モバイル・ルータ」(ルート、IIJ、パテックの共同開発)を展示(写真9)。PHS/3G携帯等と接続可能な無線LAN(802.11a/b/g)を搭載し、モバイルIPによってアクセス網が変わってもシームレスなモバイル通信が可能。

### UWB 対応携帯電話

フリースケール・セミコンダクタは、世界初のUWB対応携帯電話を展示(写真10)。内蔵カメラで撮影した画像をUWBにより瞬時にPCに転送できる。

### CF型1セグ放送受信モジュール

インテルブースでは、エスケイネット製のCF型1セグ放送受信モジュールもデモ(写真11)。ウィンドウズXP搭載ノートとウィンドウズCE 5.0の試験ユニットに搭載した状態で動かしていた。2006年の春の1セグ放送開始までに店頭販売を目指して開発中。

### 次世代ワイヤレス技術展(Ubit) YRPユビキタス・テストネットFORUM

会場に救急車を持ち込み、遠隔操作によって超音波診断装置を操作する様子が紹介された。このシステムでは公衆系移動通信(W-CDMA)と自営系移動通信(IEEE802.11b/gなど)を使い分け、心電図計のデータや患者の映像も伝送できる(写真12)。



写真7:「インテルPRO/Wireless 5116システムオンチップ」搭載ボード。デモのために無線局免許を取得するほどの意気込み。

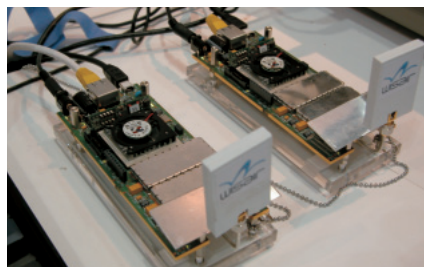


写真8:バージョン1.0対応の「ワイヤレスUSBのプロトタイプ」(ウィザー社製)。3mの短距離で480Mbpsを実現。



写真9:アライドテレシスの「超小型マルチプラットフォーム・モバイル・ルータ」。3way(バッテリー/DC/AC)電源に対応。



写真10:フリースケールのカメラ付DS-UWB対応携帯電話。UWB通信モジュールはSDIOを介して携帯電話内部に収納されている。



写真11:エスケイネット製のCF型1セグ放送受信モジュール。ウィンドウズXPノートとウィンドウズCE 5.0の試験ユニットに搭載。



写真12:救急支援ブロードバンド無線ネットワークのデモ。遠隔操作で超音波診断装置を使用し、伝送された画像を表示している。

## BCS Tokyo 2005「電子会議システム関連の25社が出展」

「BCS Tokyo 2005」が7月14日と15日の両日、東京・港区の青山テピアで開催された。このイベントは、2001年に7社出展で初めて開催された後、年々その規模を大きくし、今年は25社が出展する展示会およびセミナーとして開催された。

### フレッツフォン「VP1000」

#### 会議システム

NTT東日本は多地点会議装置を利用したフレッツフォン「VP1000」による会議システムを参考出品。また「Netcommunity SYSTEM X7000」でのフレッツフォンの利用についてもアピールしていた。

### 多地点ビデオ会議システム

#### 「RADVISION」

マクニカネットワークスは4スロットにモジュールが装填可能なSCOPIA400は、SIP/H.323に対応。また3GPP 3G-324Mをサポートし、第3世代携帯電話に対応したゲートウェイも用意されている。



ポリコムの中・大会議室用ビデオ会議システム「VSX 7000」はセカンドカメラに対応。14日発表の新製品も展示されていた。



ウェブ会議システム「WebEx」はPC上のドキュメントやデータを共有できる。ASPサービスなのでハードウェア導入が不要。

### Flash Playerでウェブ会議

#### 「BREEZE」

マクロメディアマクロメディアはウェブ会議、オンラインセミナー、eラーニング、オンデマンドプレゼンテーションなど多用途に使える「BREEZE」をセミナー形式で紹介していた。

## 電子会議システムの最新市場動向

世界的に見た場合テレビ会議市場は、堅実に成長傾向。国内市場も右肩上がり成長。欧米、また最近中国メーカーが多数競争を展開しているが、その中で主な日本メーカーは、ソニーとNECで少数派。技術的な点では、「コンテンツのリッチ化」がある。声の質が上がってステレオになったり、映像が高精細化(HD化)するなどだ。多くのメーカーが取り組み始めており、映像の圧縮コーデックにH.264/AVCが採用され出したのもその現れだろう。5年、10年前のテレビ会議システムのイメージは払拭しつつあるのが現状だ。以前は「テレビ会議システムの映像でそこ



ソニーのビデオ会議システム「PCS-TL50」は20型ワイド液晶ディスプレイ、パン・チルトが可能なデジタルPTDカメラを装備。



アスラの可搬型テレビ会議システム「VOYAGER STAR」は防水加工され、NATO KIV-7暗号化通信インターフェイスをサポート。

### ライブ撮影システムで「見せる」

ヴォルフビジョンはテレビ会議などで資料を見せるのに威力を発揮する「ビジュアルライザー」を展示。「VZ-9」は85万画素ながら画像の歪みがほとんどなく、驚くほど鮮明な画像が出力される。



橋本 啓介

BCS Tokyo 2005 事務局長。会議システムの情報メディア「CNA Report Japan」の編集長を務め、定期的にレポートを発行している。  
<http://cnar.jp/>

までの品質は必要ない。」という意見もあったが、遠隔地同士であってもそれを感じさせない臨場感を表現できる点が会議システムの本質。やはり、決定会議のような利用場面では臨場感が求められる。

国外では、中国での導入が進んでいる。中国に進出した日本企業が、国内と中国拠点間での利用するためというケースも多いが、中国国内でも政府の推進もあって導入には積極的なようだ。

世界的な傾向としては、PCをベースにしたウェブ会議システムの注目が高く急伸している。映像と音声だけではなく、ドキュメントの共有や共同作業のための機能が備わっており、トレーニングやサポートの分野で需要が高い。専用のテレビ会議システムに比べて導入コストが安いというのも理由の1つだろう。



タンバークのポータブル型「Tactical MXP」は、内蔵の多地点接続機能でテレビ会議端末最大4拠点+音声3拠点の接続が可能。

世界第4位のテレビ会議システムメーカー

## アエスラ社日本上陸

テレビ会議システムはブロードバンド化とともに実用の域に達した製品である。そのテレビ会議システムの市場にポリコム、タンバーク、ソニーに続く世界シェア第4位のシェアを持つイタリアのアエスラ社が日本で製品投入を開始した。編集部ではこのアエスラ社のCEOである Marco Viezzoli 氏に話を聞いた。

アエスラ社のテレビ会議システムの特徴は価格設定が従来の他社製品に比べて安価であること。これまで1台あたり数十万円～100万円程度していた据え置き型の製品が30万円台、つまり半値から1/3の価格になっている。この価格帯の製品の多くは企業の本社と支店レベルで使われることが多く、これまで営業所や部門単位などの小さい単位での導入は進まなかった。

しかし、価格が安価であることから、よ

り細かい単位での導入の決定がしやすいことはもちろん、さらにより安価なモデルであれば出張時に持ち歩くといったパソコン並みの使い方もできるものである。中小企業が多い日本企業のニーズにこたえることができる製品であるという。

つまり、ビデオ会議システムもさらなるダウンサイジングの時代に入ったということができらるだろう。

また、今後は遠隔教育などの分野についても市場性があるという。

アエスラ社はそもそもイタリアにおける通信機器のトップメーカーであり、テレビ会議システムのハードウェアは端末機器の1つであり、ネットワーク機器、通信機器で培った開発、製造能力により、量産のスケールメリットを出していくという。

日本市場では後発となるアエスラ社もテレビ会議システムはすでに世界60か国

以上で販売している実績があり、世界40か国以上の電気通信事業者に対する製品供給の実績がある。テレビ会議システムとしてはすでに10万台の設置実績があり、特にイタリア国内では市場シェアの80パーセントを持っている。

なお、この製品の日本総代理店はVTVジャパン社である。

アエスラ社：<http://www.aethra.com/>

VTVジャパン社：<http://www.vtv.co.jp/>



アエスラ社のCEO Marco Viezzoli 氏

広帯域テレビ会議ソリューションのデモを実施

## 最大15拠点間の接続が可能な高品質システム「ViPr」

NTTコミュニケーションズ(以下、NTTコミュニケーションズ)は6月24日、広帯域テレビ会議ソリューションのデモを行った。これは、東京三田にあるNTTコミュニケーションズのオフィス3室および関西支店の計4地点を結びというもの。システムは、テレビ会議専用端末、ビデオサーバー、SIPサーバー、L2スイッチ、CUNets(NTTコミュニケーションズが提供するトータルVPNソリューション)の広域イーサネットにより構築された。デモでは、ポイントツーポイント接続から4地点間会議までが行われ、いずれも高品質の映像と音声でのやり取りが実現された。

このシステムの中核となるのは、端末として使われた英マルコーニコミュニケーションズ社製のテレビ会議システム「ViPr(ヴァイパー)」だ。映像の圧縮コーデックにMPEG2を採用しており、これにより従来製品よりも高画質な映像を実現している。

これまで一般的なテレビ会議システムでは、コーデックにH.261やH.263、フォーマットにはCIFなどが採用されてきた。そのため、帯域に余裕があっても映像品質はアナログテレビ以下か同程度という製品がほとんどだった。しかし、インターネットブロードバンド回線の利用が前提であれば、それを活かして品質を向上させるべきという設計コンセプトで開発され、その結果採用されたのがMPEG2。音声コーデックもPCM(CD品質)のステレオで、会議の臨場感を高めている。

もう1つ大きな特徴が、MCU(多地点接続装置)が別途不要で、最大15拠点間での会議が可能な点。1画面に相手先となる14拠点分の映像が表示されるが、使用帯域の最適化により品質保持を実現している。その他にも、アプリケーション/ドキュメント共有、他社も含めたテレ

ビ会議システムやIP/アナログ電話との相互接続、IPv6に対応する。

すでに5月16日からNTTコミュニケーションズが国内での販売を行っているが、NTTコミュニケーションズが提供するネットワークサービスとあわせた販促、サポートを行っていくとのこと。1台約100万円程度だが、システム構築には別途専用のSIPサーバー等が必要となる。



デモ中の「ViPr」。モニターやカメラが一体型で、重量も12.7kgと室内での移動にも支障がない。PCモニターとしても使えるので、省スペース性も高い。

## ソフトウェア開発環境展「SODEC」が東京ビッグサイトで開催 キーノートは、米マイクロソフト会長のビル・ゲイツ氏

ソフトウェア開発・保守・運用のための製品および技術が一堂に会する「ソフトウェア開発環境展 (SODEC)」が、6月29日から7月1日まで、東京・有明の東京ビッグサイトで開催された。

初日には、米マイクロソフト会長のビル・ゲイツ氏によるキーノート「The Magic of Software ~ 新世代のソフトウェアが描く未来像 ~」が多く聴衆を集めた。

また、同時にデータウェアハウス & CRM EXPO、組み込みシステム開発技術展、データストレージ EXPO、情報セキュリティ EXPO も開催され、こちらの展示も多くの人でにぎわった。

なかでも組み込みシステム開発技術展は、397社が出展するという盛況ぶりで、無線 LAN や携帯電話関連の最新テクノロジーも多く展示されていた。

ACCESS は、開催前日に発表された

NetFront のデジタル放送向け製品「NetFront DTV Content Viewer (家庭用デジタルコンテンツビューア)」「NetFront BML Viewer Wireless Edition (1セグ放送用コンテンツビューア)」「NetFront DTV Profile BML Edition SDK」を展示し新市場への対応をアピール。また、伊藤忠商事が展示していたスペイン DS2 社の PLC (電力線通信) デモは 200Mbps を実現できるとのことで興味深い展示だった。



データ放送向けの標準言語「BML」で作成されたコンテンツを正確に表示できる。

## グーグルが「Google マップ」と「Google ローカル」の日本版を開始

グーグルは7月14日、日本版の「Google マップ」と「Google ローカル」サービスを開始した。

Google マップは、地図情報サービス。場所の名前または住所を入力すると、指定したエリアの地図が表示される。上下左右の矢印ボタンをクリックすると表示位置を移動することが可能。スライダーで表示倍率を変更でき、また「サテライト」ボタンをクリックすると、衛星写真を表示することができる。

Google ローカルは、グーグルの Web ページインデックスと NTT 東西のタウンページデータを結合した検索サービス。「キーワード」と「場所」を入力して検索すると、検索結果のリストと位置がマークされたマップが表示される。

<http://maps.google.co.jp/> (マップ)

<http://local.google.co.jp/> (ローカル)

## IP-VOD ソリューションを提供する メイブン・ネットワークス社日本上陸

放送と通信の融合が話題になっている昨今、また1社、IPの技術を使ったビデオ・オン・デマンドの配信ソリューションを提供する企業が上陸した。それが米国メイブン・ネットワークス社である。同社のソフトウェアソリューションはHDクオリティー、またはDVDクオリティーの動画をインターネットを使って効率的に配信するもので、PCに限らず、ポータブル機器やテレビに対しても配信をすることができる。

同社の核となる技術は「インテリジェント・デリバリー・システム (IDS)」と呼ばれるもので、これはクライアント側、つまりPC、セットトップボックス、携帯デバイスなどの上で動くアプリケーションにビデオ配信機能を付加するフレームワークである。このIDSはネットワークで映像を配信する際の複雑なプログラミング、キャッシュ管理、OSによるデバイスのサポートなどの

負担を大幅に軽減する。

また、サーバー側のコンテンツ管理機構としてはコンテンツ資産の整理、配信、検索などを容易に行うことができるほか、レポート機能があり、ビデオの配送結果の追跡やクリック数など、リアルタイムでのログ解析機能をサポートしている。

さらに、マイクロソフト社の DRM との連携によって、コンテンツの利用期限の設定を行うこともできる。

同社のソリューションはすでにヴァージンレコード、20世紀フォックスなどのメディア企業をはじめ、メジャー企業のマーケティングの仕組みとしても採用されている。

今後、ブロードバンド化とともに、インターネットを使った高画質の映像配信のニーズはさらに高まり、多くの企業が映像を表現手段として使うようになるだろう。

<http://www.maven.net/jp/>

## フジテレビが番組のネット配信を スタート、日本テレビも参入表明

フジテレビは、有料のオンデマンド映像配信サービス「フジテレビ On Demand」を開始した。

配信は提携したISPなどを通じて行われ、7月15日からはトライアルステージの第1弾として「2005 ワールドグランプリ女子バレーボール」決勝ラウンド15試合の配信が開始された。また第2弾は、8月に山崎まさよしのライブビデオを配信する予定だ。料金は第1弾15試合分、第2弾とも525円。当面の間は、CS放送「フジテレビ721・739」のオリジナルコンテンツが中心となる。

また日本テレビも7月19日に、今秋からVoD事業へ本格参入することを発表した。バラエティー、ニュース、ドラマなどを中心に3~15分程度のコンテンツを有料で配信するほか、広告での収入も視野に入れているという。

## ウィルコムが PHS 無線通信部分をモジュール化した「W-SIM」を発表

ウィルコムは7月7日、PHS無線通信部分を小型モジュール化した「WILLCOM コアモジュール」の新製品「W-SIM (ウィルコムシム)を開発するとともに、PHS市場の積極的な拡大のために「WILLCOM コアモジュールフォーラム(仮称)」を設立したと発表した。

「WILLCOM コアモジュール」は、無線機器としての認定をすでに取得しているため、これを利用するとPHSを組み込んだ機器やPHS音声端末などの開発工数が大幅に削減できるのが特徴。

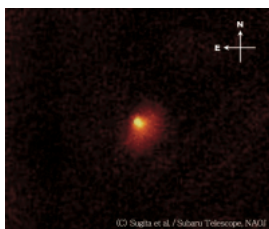
W-SIMは、回線交換とパケット通信の両方に対応し、データ通信速度は最大128kbps、ユーザーメモリーとして600Kバイト(電話帳約700件分)を内蔵している。発表会では、W-SIMを利用したPHS音声端末「WILLCOM SIM STYLE」の試作機も披露された。

## WIDE、すばる望遠鏡からのハイビジョン映像を伝送

WIDEプロジェクトは、国立天文台とNHKが実施する、高感度ハイビジョンカメラによる観測映像のリアルタイム伝送に技術協力した。

日本時間の7月4日、米国ハワイ島のマウナケア山頂に位置するすばる望遠鏡より、米国航空宇宙局(NASA)が実施するディープ・インパクト探査計画の地上観測を実施。その映像はHD映像の転送により、東京大手町へリアルタイム伝送され、ニュース映像などとして放送された。

[http://www.naoj.org/j\\_index.html](http://www.naoj.org/j_index.html)



COMICSが捉えたテンペル第一彗星。[写真提供:国立天文台]

## 平成電電とドリームテクノロジーズ、2006年にWiMAX・Wi-Fi併用サービスを開始

平成電電とドリームテクノロジーズは、共同出資会社のジャパンワイヤレスで、今年11月からワイヤレスブロードバンド事業に参入する。

まず、今年の11月にはWi-Fi(802.11a/b/g)のサービスを、2006年上期にはWi-FiとWiMAX(802.16e)を併用した高速データ通信および音声通信のサービスを開始。2006年12月には約18万人の加入者数と約23億円の売上高を見込んでいる。



左からオープンループ 駒井社長、平成電電 佐藤代表取締役、ドリームテクノロジーズ 山本社長、ジャパンワイヤレス 大山代表取締役、アドテック ス 黒瀬社長。

## 内線IP電話の管理を効率化する番号管理専用サーバーが登場

ヤマハは7月26日、電話帳サーバー「RTV01」を発表した。この製品は、IP電話の番号を集中管理するためのもの。ヤマハによれば、現在IP電話市場は拡大し続けており、IP内線電話も中小規模の企業での導入が増加しているという。そこで課題となるのが、煩雑な電話番号の管理。同社には、VoIPルーターやゲートウェイのRT57iやRTV700があるが、それらとRTV01を組み合わせることで、効率的な番号管理を実現する。

希望小売価格は税込207,900円で、10月下旬からの発売予定。



ヤマハの電話帳サーバー「RTV01」

## エイベックス、iTunes Music Storeに楽曲提供を決定

エイベックスネットワークは7月14日、米国アップルコンピュータ社が日本国内でサービス開始を予定している「iTunes Music Store」にエイベックスの楽曲を提供することで最終合意したと発表した。

この合意は、国内でのiTunes Music Store展開のためにアップルコンピュータが5月23日に設立した100%子会社、アイチューンズとの間で成立したものの。アイチューンズは、他にも国内の主要レコード会社と交渉を行っている模様だ。

最近のアップルコンピュータは、RSSを使って音声ファイルをダウンロードする「Podcasting」に力を入れており、6月28日に発売開始された新型「iPod」にはPodcastingメニューが追加され、また最新版のデジタル音楽管理ソフト「iTunes 4.9」ではPodcastingの検索や管理を行う「Podcast Directory」機能を搭載している。

## 日本初の中国富裕層会員向けショッピングモール「UCモール」がオープン

中国市場へのビジネス展開を行うUCJは6月15日、日本初の中国富裕層会員向けショッピングモール「UCモール」をオープンした。

同社の審査さえ通過すれば、大企業のみならず、中小・SOHOまで出店することができる。

言葉、代金回収、そして集客という最大の問題により、これまでは困難とされていた中国市場へのネットショップ出店が、このモールによって容易になった。

- ・円立て決済
  - ・代金回収なども安全性が高い
  - ・商品情報翻訳サービスなどショップ作成のサポートも充実
  - ・購入者とのやりとりも、UCJの中国スタッフが対応
- などの特徴がある。

<http://www.ucj.jp/>

■ E ストアで商品検索・価格比較の「アラジン」が利用可能に

ウェブショップの開店・集客・宣伝・運営を支援するEストアは6月21日、ウェブ上での商品検索・価格比較サービス「ショッピングサーチ・アラジン」を運営するコマースリンクと提携し、Eストア利用者がアラジンにも同時出店できるサービスを7月20日より開始すると発表した。

Eストアでは、これまでレンタルサーバー「サイトサブ」、EコマースASP「ストアツール」の供給を通じて、ウェブショップ本店のインフラ面を中心に支援してきたが、本年度より、集客効果を増加させるサービスにも注力。その1つとして、集客の多い有名サイトに「支店」として出店できるサービスを展開しており、既にシーサーの「Seesaaショッピング」など8サービスと連携している。今回の提携により、アラジンは9つ目の連携サービスとなる。

<http://estore.co.jp/>

■ システム障害時もサービスを継続的に提供可能な「iCLUSTA」サービスが開始

GMO ホスティングアンドテクノロジーズは、システム障害時でもサービスを継続的に提供可能な共用サーバー「iCLUSTA」(アイクラスタ)をホスティングブランド「アイル」で5月30日より販売開始した。

iCLUSTAではメール、ウェブ、サーバー機能を利用者が自由に選択して独自スペックを作り上げるBTO(Build to Order)方式を採用したカスタムプランをはじめ、独自SSLを標準搭載したセキュリティー強化型のパッケージなど全6プランを月額900円(税込945円)より提供する。

iCLUSTAの最大の特徴は、共用サーバーの常識を覆す「無停止システム」。新開発のダイナミック・クラスタ・アーキテクチャー(DCA)の採用により、サーバー機器、ネットワークなど障害の要因となるコンポーネントを二重化/冗長化。100%に近いサーバー稼働率を実現した。

■ 「GMOどこでもLAN」で最大100アカウントまで同時接続可能なプランが開始

GMOインターネットは、同社が運営するASP型VPNサービス「GMOどこでもLAN」で、最大100アカウントまで同時接続可能な新プラン「ビッグHUBプラン」を7月4日に提供開始した。

「ビッグHUBプラン」では、40アカウントから100アカウントまでの最大接続数の選択が可能となり、従来の「スタンダードHUBプラン」のアカウント数では十分でなかった事業規模の利用が可能になった。

ビッグHUBプランの利用料金は、初費用が10,500円、月額費用はグループ(HUB)利用料12,600円と、アカウントライセンス料金(アカウント数40:10,500円、60:14,490円、80:17,640円、100:19,950円)の合計。

なお月額費用は、申し込みから1か月間は無料となる。

<http://www.dokodemolan.com/>

## Event Calendar

これから開催される国内外の主要なIT関連イベントを紹介。イベント情報掲載希望の方は、次のメールアドレスまでご連絡ください。  
im-release@impress.co.jp

期日	名称	場所	URL
3/25-9/25	愛知万博(2005年日本国際博覧会)	愛知県	<a href="http://www.expo2005.or.jp/jp/">http://www.expo2005.or.jp/jp/</a>
7/31-8/4	第32回 SIGGRAPH 2005	ロサンゼルス(米国)	<a href="http://www.siggraph.org/s2005/">http://www.siggraph.org/s2005/</a>
8/1	Imagine Cup World Festival	パシフィコ横浜	<a href="http://www.event-information.jp/Events/imaginecup/">http://www.event-information.jp/Events/imaginecup/</a>
8/2-8/5	Microsoft Tech・Ed 2005 Yokohama	パシフィコ横浜	<a href="http://www.microsoft.com/japan/teched/">http://www.microsoft.com/japan/teched/</a>
8/2-8/7	セキュリティキャンプ2005	(財)海外技術者研修協会 東京研修センター	<a href="http://www.jipdec.jp/camp/">http://www.jipdec.jp/camp/</a>
8/8-8/11	LinuxWorld Conference & Expo San Francisco 2005	サンフランシスコ(米国)	<a href="http://www.linuxworldexpo.com/live/12/events/12SFO05A/">http://www.linuxworldexpo.com/live/12/events/12SFO05A/</a>
8/23-8/25	IDF 2005 Fall(インテル開発者会議)	サンフランシスコ(米国)	<a href="http://www.intel.com/idf/">http://www.intel.com/idf/</a>
8/31-9/1	Content Management Forum 2005	大手町サンケイプラザ	<a href="http://www.idg.co.jp/expo/cmf/">http://www.idg.co.jp/expo/cmf/</a>
9/13-9/16	Microsoft PDC 2005	ロサンゼルス(米国)	<a href="http://msdn.microsoft.com/events/pdc/">http://msdn.microsoft.com/events/pdc/</a>
9/14-9/16	第7回自動認識総合展	東京ビッグサイト	<a href="http://www.autoid-expo.com/">http://www.autoid-expo.com/</a>
9/16-9/18	東京ゲームショウ2005	幕張メッセ	<a href="http://tgs.cesa.or.jp/">http://tgs.cesa.or.jp/</a>
9/27-9/29	イノベーション・ジャパン2005	東京国際フォーラム	<a href="http://expo.nikkeibp.co.jp/innovation/">http://expo.nikkeibp.co.jp/innovation/</a>
10/3-10/5	2005 FTTH EXPO	ラスベガス(米国)	<a href="http://www.ftthconference.com/">http://www.ftthconference.com/</a>
10/4-10/8	CEATEC JAPAN 2005	幕張メッセ	<a href="http://www.ceatec.com/">http://www.ceatec.com/</a>
10/22-11/6	第39回 東京モーターショー2005	幕張メッセ	<a href="http://www.tokyo-motorshow.com/">http://www.tokyo-motorshow.com/</a>
10/26-10/27	WPC EXPO 2005	東京ビッグサイト	<a href="http://expo.nikkeibp.co.jp/wpc/">http://expo.nikkeibp.co.jp/wpc/</a>
10/26-10/28	Security Solution 2005	東京ビッグサイト	<a href="http://expo.nikkeibp.co.jp/secu-ex/">http://expo.nikkeibp.co.jp/secu-ex/</a>
11/30-12/2	2005 産学官技術交流フェア	東京ビッグサイト	<a href="http://www.nikkan.co.jp/eve/">http://www.nikkan.co.jp/eve/</a>
11/30-12/3	2005 国際ロボット展	東京ビッグサイト	<a href="http://www.nikkan.co.jp/">http://www.nikkan.co.jp/</a>

上記の情報は変更になる場合があります。応募・参加の際には必ず主催者にお確かめください。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)